

中世における信仰と知

上智大学中世思想研究所編

知泉書館刊 2013 年



【収録論文】

第 I 部 教父思想

護教論者における信仰と知の問題 出村みや子

カッパドキア教父における信仰と知の問題 土橋茂樹

アウグスティヌスにおける信仰と知——フィロソフィアの原義に立ち返って
出村和彦

神への関与のアナロギア——擬ディオニュシオスから証聖者マクシモス
へ 谷隆一郎

第Ⅱ部 初期スコラ学と修道院神学

エリウゲナにおける信仰と知 今義博

カンタベリーのアンセルムスにおける信仰と理性 矢内義顕

ペトルス・アベラルドゥスにおける理性と信仰 K・リーゼンフーバー

クレルヴォーのベルナルドゥスにおける愛の霊性 桑原直己

サン・ヴィクトール学派における信仰と知 中村秀樹

第Ⅲ部 盛期スコラ学

グローステストにおける「信」と「知」——二冊の書物～自然と聖書 樋
笠勝士

信仰の知的性格について——トマス・アキナスの創造論を手がかりに
山本芳久

アヴェロエス主義と知性単一論の問題 山内志朗

第Ⅳ部 後期スコラ学から中世末期の思想

マイスター・エックハルトの本質的始原論 田島照久

ドゥンス・スコトゥスの信仰理解と神学の位置づけ 小川量子

オッカムにおける神学と哲学 稲垣良典

クザーヌスにおける信仰と知——神秘体験における「私」の成立 佐藤
直子
